

敷手負を糺明有之處、略○中道中の強賊と成、江尻にて小野田川○瀨を殺し、金子四百五十兩、其外腰物以下雜具不殘奪取、上方者と偽り、此所に遊興致居候段、悉く令白狀、同類も相知、神奈川にて貳人ともに被捕、大科の者共なれば、鈴森にて源八始三人共梟首せらる、略○下

〔視聽草 三集 四〕深川敵討一件

昨十二日○寛政十年十一月晝四時過、深川六間堀町同所元町迄之間ニ而、南塗師町權三郎店山崎彦作後家みき外二人之もの、平内へ手疵爲負候始末、荒増左之通御座候、

南塗師町 權三郎店

手疵二ヶ所

手疵六ヶ所

みき 年四十一才
はる 年十七才

手疵三ヶ所

深川森下町吉兵衛店
手跡指南致し候
浪人 平井仙藏 年廿六才

一右みき夫山崎彦作と申者、六年已前丑年八月中、寄合神保左京家來崎山兵左衛門并 同人倅平内世話ニ而勝手小役人ニ奉公濟致し、妻子共屋敷へ引移相勤、其後同九月中、家老役ニ相成、同役崎山兵左衛門并 同人倅平内儀者見習勤いたし、三人ニ而家老役相勤罷在候處、兵左衛門父子、年來不正之筋有之、取調之儀、同月中主人左京々申付候ニ付、則取調候上、主人江申立候處、其儀を遺恨ニ存候哉、同月廿三日、平内并同人弟川口嘉作外六人ニ而、夫彦作を殺害致し候を、其節見受候處、みきはる兩人共、右屋敷ニ而扶助致可遣間、安堵致罷在候様申渡有之候ニ付、乍殘念屋敷ニ罷在候處、翌寅年二月中、永之暇申渡有之候間、引拂之已後、兼而懇合平井仙藏相頼當ニ罷在候由、當月九日用事有之、仙藏方へ罷越、止宿致候處、右體夫彦作殺害ニ逢候始末、兼而殘念ニ存罷在、娘はる儀も成長に隨ひ、殘念がり罷在候處、昨十二日晝四時過、右相手之内、崎山平内儀、仙藏家前を罷